

共同研究員の公募を行う共同研究について

1. 研究課題

基盤研究 1 日本植物文化史の分野横断的な検証と展示手法の再構築

<https://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/2020/shokubutsu.html>

2. 研究代表者

国立歴史民俗博物館・准教授 青木隆浩

3. 研究期間

令和 2 年 4 月～令和 5 年 3 月（3 年間）

4. 必要とする専門性と役割分担

植物文化に関する研究実績を有し（文系・理系を問わない）、くらしの植物苑の展示や来苑者サービス用のツール作成に関わる意欲を持つ方。

5. 研究目的

くらしの植物苑は、1995 年に開苑して、植物という生きた資料と本館展示との関わりを意識してきたが、これまで苑内の資料を全面的に意識した共同研究を立ち上げたことがなかった。1999 年の「伝統の朝顔」展から始まった「季節の伝統植物」展では、九州大学の仁田坂英二氏や恵泉女学園大学名誉教授の箱田直紀氏、台東区立中央図書館の平野恵氏など第一線の研究者から協力していただき、最先端の研究成果を展示に反映することができた。今後は、常設展示に関して改善に取り組む必要がある。

そこで、まずはくらしの植物苑の開苑目的に基づいて、人と植物の関係史をあらためて検証し、その成果を解説プレートの改善に活かして、常設展示のリニューアルに結び付けていきたいというのが、本共同研究課題における最大の目的である。

そのために強く意識していることは、植物の利用や品種の維持に対する認識が、研究分野や時代によって大きく異なるということである。そこで、本共同研究課題では、できるだけ分野横断的であることと、時代によって植物利用のあり方を重視することに重点をおきたいと考えている。

具体的な作業としては、植物苑に植栽されている品種のリストに基づいて、これまで各分野で蓄積してきた研究成果を突き合わせていきたい。植物に関するデータベースがいくつか公開されているので、それを用いながら、植物の利用法について分野横断的な検証をおこなう。

そのうえで、人と植物の関係に基づいた解説プレートの新たな作成を検討する。現状の解説プレートは劣化が進んでいるので、いずれにしても交換が必要である。この解説プレートの作成を踏まえながら、来苑者が目的に合わせて歩けるような導線を、コンパクトなガイドブックと苑内地図の作成によって紹介したい。

また、くらしの植物苑であえて植栽していないイネや小麦などの農耕植物をどのように紹介していくか検討する。農耕植物の多くは、植物苑の土地条件によって植栽できていない。しかし、人と植物の

関係史をみていくには、本館展示とも関連した解説方法を検討する必要がある。

さらに、ヒョウタンやウリを加工した道具類や工芸品の保存と植物苑外での展示を検討していく。これによって、モノ資料と植物苑での生きた資料との関連が強化されると考えている。

6. 研究計画

<令和2年度>

最初に、くらしの植物苑で植栽されているはずの植物のリストと現実に維持されている植物を照合させていく。すでに枯れている植物、展示していない植物は、リストから外す。次に、現状の6つのゾーニングと実際の植栽を見直す。具体的にいうと、くらしの植物苑の常設展示は、「食べる」、「織る・漉く」、「染める」、「治す」、「道具を作る」、「塗る・燃やす」に分けられているが、それらの境界が不明瞭なうえ、いくつかの同じ品種が複数のゾーンにまたがって展示されている。そこで、ゾーニングと展示している植物の品種の関係について、現状を確認する。

そのうえで、とくに重要な植物の品種を選択する作業をおこない、リスト化する。そして、すでに公開されているデータベースや文献を用いながら、各種の植物について共同研究員の担当を決めていく。全国の主要な植物園をおもに館内メンバーを中心として見学し、その解説内容や展示手法について検討していく。この調査は、3年間を通じてできるだけ続けていく。

<令和3年度>

前年度に作成した主要な植物のリストに基づき、各分野における研究成果を照合して、解説プレートの作成に必要な情報を絞り込んでいく。試行的に解説プレートを増やしていき、来苑者の反応をみる。そして、重要なキーワードをピックアップし、それに基づいた苑内地図を作成していく。その際、現在6つのゾーンに複数散在している植物の品種について、解説の内容や植栽のあり方を検討する。

<令和4年度>

解説プレートの文面や苑内地図に基づいたガイドマップの作成を開始する。ガイドマップは、ポケットに入る新書判にする予定である。1頁に2枚の植物写真を掲載して、解説を加えていきたいと考えている。同時に苑内地図の作成も続け、植栽や施設整備の問題点を浮き彫りしていく。解説プレートの文面や苑内地図に基づいたガイドマップの作成を開始する。ガイドマップは、ポケットに入る新書判にする予定である。1頁に2枚の植物写真を掲載して、解説を加えていきたいと考えている。同時に苑内地図の作成も続け、植栽や施設整備の問題点を浮き彫りしていく。